

日本バプテスト連盟
加盟教会・伝道所の皆さま

カンボジア派遣宣教師 派遣終了のお知らせ

復活の主、イエス・キリストの御名を賛美いたします。

新年度が始まり、諸教会、伝道所におかれましては福音宣教のお働きにお励みのことと存じます。

さて、年度末に連盟ホームページを通してカンボジアバプテスト連盟（CBU）に派遣しておりました嶋田和幸宣教師、嶋田薫宣教師の任期満了と、派遣地カンボジアでの任期満了と連盟派遣宣教師としての派遣終了についてお知らせをいたしました。

両宣教師は2014年10月に選任され、2015年3月より連盟派遣宣教師としてカンボジアに派遣され、3期8年半の働きを担って下さいました。その尊いお働きに心より感謝いたします。

そして、この8年半の期間、諸教会・伝道所の皆さまには、カンボジア宣教の働きを祈りに覚えてお支えいただきましたこと、また、献げ物によるお支えに感謝いたします。特に、日本バプテスト女性連合におかれましては世界バプテスト祈禱献金により宣教師の働きを支えていただきましたこと、心から感謝申し上げます。

また、両宣教師からも感謝のメッセージが届いておりますので、添付いたします。

さて、今回、連盟派遣宣教師が派遣地において任期満了となりましたことにつきまして、改めて、理事会よりご報告いたします。

理事会は、昨年（22年）2月の2021年度第3回理事会において、2022年度末をもって日本バプテスト連盟によるカンボジア宣教師派遣の終了を決議いたしました。この判断の背景には、その時点でカンボジアの国情から、宗教活動に対して制限等が厳しくなると予測されることがCBUから伝えられていたことがありました。このような不安定な国情と、機構改革により、2023年度以降、国外伝道の専任主事を立てることが困難となることから、連盟の派遣体制の限界等を含め、総合的に判断いたしました。そして、通常一期三年の宣教師任期については、第3期は一年間の任期とすることを両宣教師にお伝えし、合意のもとで第3期（一年間）の任期更新をいたしました。

このようなカンボジア宣教師派遣終了の判断と、1年間の任期による派遣としましたことにつきまして、2022年2月15日付文章にて、理事会より教会・伝道所の皆さまにお知らせをいたしました。

理事会としましては、この第3期、一年間の派遣期間中に両宣教師のこれまでの働きを現地の方々を引き継ぎし、任期満了をもって派遣地から引き上げ、帰国する「帰任」を前提としておりました。宣教部国外伝道室（当時）と常務理事とで22年の夏以降、複数回Zoomによる懇談を行い、任期を終えることを双方で確認すると共に、常務理事、国外伝道室より派遣終了について説明する機会を持ってまいりました。また、帰国後の教役者としての任地等についても検討をしておりました。しかし、両宣教師より、連盟派遣宣教師としての派遣終了後もカン

ボジアでの宣教活動を継続したいとの希望が表明され、帰国して日本バプテスト連盟の教役者として働くことは考えていないとの意志が伝えられました。

これらを踏まえ、2022年12月に常務理事より帰任に関する「確認書」を両宣教師にお渡しし、改めて理事会より2023年4月以降の計画について両宣教師に確認をいたしました。これに対して両宣教師より、4月以降も帰国せずカンボジアで働き、宣教活動を行うという意思は変わらないこと、そして、6月から8月に一時帰国をするという計画が示されました。理事会では両宣教師より上記の強い希望が示されたことを受け、対応について協議を重ね、最終的に3月開催の臨時理事会に於いて、両宣教師に対して「帰任」を求めず、派遣地カンボジアでの任期満了を了承いたしました。

理事会としましては「帰任」し、連盟主催の報告会での報告、宣教師としての経験を用いての協力伝道の働き、連盟加盟教会での宣教の働きを願っておりましたが、両宣教師の意志を尊重することといたしましたこと、改めて諸教会・伝道所の皆さまにご報告いたします。4月以降は個人としての働きとなりますので、帰国、報告もその範囲で行われることとなります。

新年度より機構改革による新しい体制がスタートいたしました。国外伝道については23年度、24年度を移行期として位置づけ、25年度から新しい体制で国外伝道の働きを担っていく計画となっております。移行期間は、理事会のもとに国外伝道臨時員会を設置し事務所宣教室と共に国外伝道の働きを担ってまいります。引き続き、国外伝道の働きをお祈りにおぼえていただければ幸いです。

また、嶋田和幸前宣教師、嶋田薫前宣教師のためにもお祈りいただきますよう、お願いいたします。

最後になりましたが、加盟教会・伝道所の福音宣教のお働きが、祝されますようお祈りいたします。

2023年4月18日
主の平和を祈りつつ
理事長 吉田真司
常務理事 中田義直

日本バプテスト連盟加盟教会・伝道所の皆さま

主の御名を賛美いたします。いつもお祈りありがとうございます。私たちは、2023年3月31日を持ちまして、三期、8年半にわたるカンボジア派遣宣教師としての働きを終了しました。2015年3月のカンボジア派遣以来ずっと、全国諸教会の皆さま、そして女性連合の皆さまの篤い祈りと多くの献げものによって、私たちの現地での活動はもちろんのこと、生活と子どもたちの学校生活も守られてきました。今一度、心からの感謝の意をお伝えしたく思います。

今から8年前の3月25日、連盟職員の方々が羽田空港まで見送りに来てくださり、私たちは祈りと賛美によって押し出され、カンボジアの地に遣わされました。以来ずっと私たちは、CBU（カンボジアバプテスト連合）オフィス教会で仕えてきました。初めの頃は、カンボジア語がほとんどできず、毎日生活するだけで精一杯でした。語学の習得が思うようにいかず、悩んだこともありました。家や車のトラブルが続いた時もありました。しかし、皆さまの祈りによって、宣教の働きは少しずつ、確実に前進し、教会では特に、子どもへの伝道の働きが示されました。子どもから子どもへ福音を宣べ伝えるというビジョンが主から与えられました。

更に2年前、薫宣教師が肩を痛め、治療とリハビリのために約半年間、日本に滞在したことがありました。この期間、そしてその後も、お手紙やメールなど温かいお声を幾つも頂きました。祈りに覚えられている幸いを実感したひと時でした。この期間はコロナ危機の真ただ中でもあり、日本でもカンボジアでも、オンライン授業やロックダウンなど、非常に厳しい時でした。しかしコロナ危機の中でも私たちの生活は守られ、そして神様の宣教が留まることはありませんでした。これらは、皆さまのお祈りなくしては、決して実現しなかったことだと思えます。

全国諸教会の皆さま、そして女性連合の皆さま、8年間という長きにわたって私たちと家族をお支えくださり、本当に、ありがとうございます。これからの私たちの信仰の歩みを覚えて、お祈りいただければ幸いです。どうか皆さまに、主にある希望が、日々共にありますように。

嶋田和幸・嶋田薫